

山ノ下遺跡発掘調査説明会資料

2006年8月2日(水)

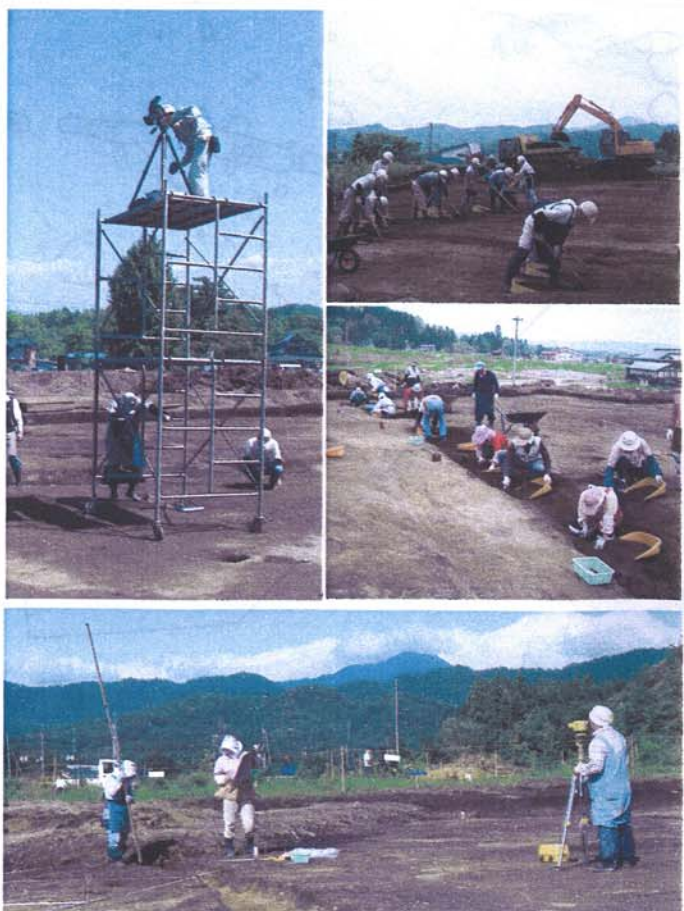
財団法人山形県埋蔵文化財センター



調査の概要

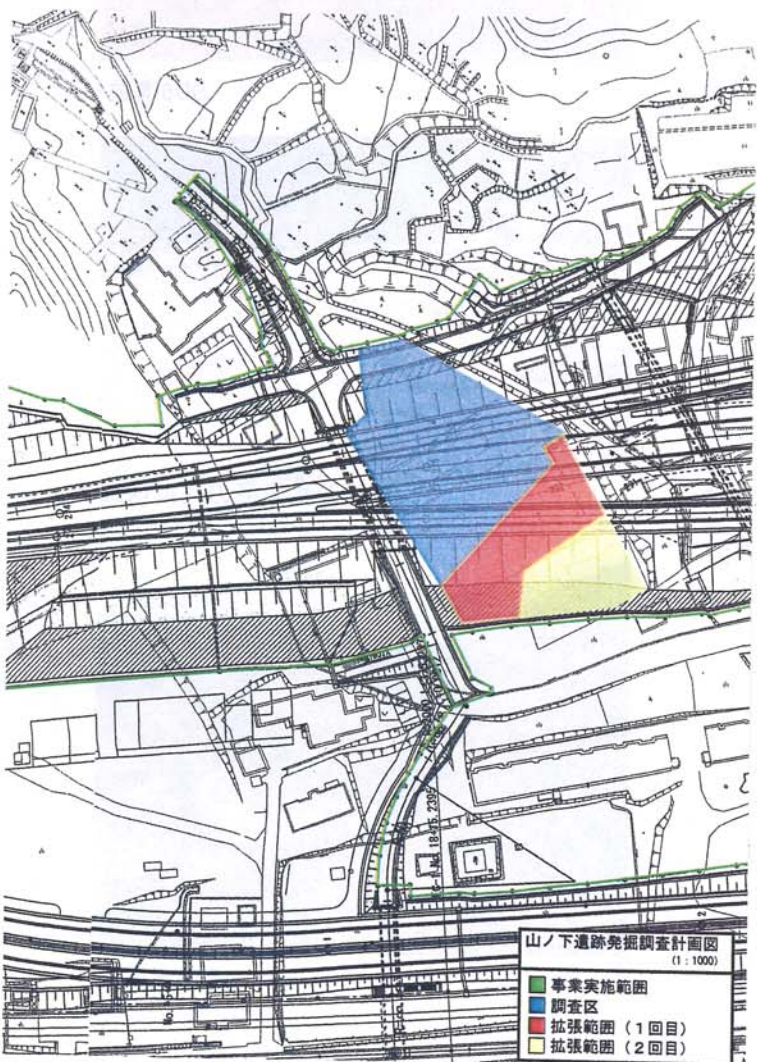
東北中央自動車道は福島県相馬市と秋田県横手市とを結ぶ高速道路網で、福島市からは国道13号と並行する縦貫道として整備・建設中です。

山ノ下遺跡は米沢市街地から南東方約5kmに位置し、縄文時代の集落跡と推測される遺跡です。その範囲は現況の地形等から推察して、東西約60m・南北約100mと考えられます。今回の調査は昨年度の試掘調査の結果に基づいて調査区を設定し、5月9日より実施しました。調査の進行に伴って、北側に遺構や遺物の広がりが見られるため、途中二度にわたって調査区を拡張しました。



調査要項

| | |
|-------|---|
| 遺跡名 | 山ノ下遺跡 |
| 遺跡番号 | 平成17年度登録 |
| 所在地 | 米沢市万世町桑山宇山ノ下 |
| 調査委託者 | 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所 |
| 調査原因 | 東北中央自動車道(福島県境～米沢)建設 |
| 調査面積 | 3,000㎡ |
| 現地調査 | 平成18年5月9日～7月31日 |
| 遺跡種別 | 集落跡 |
| 時代 | 縄文時代・平安時代 |
| 遺構 | 土坑・陥穴・埋設遺構・溝跡 |
| 遺物 | 縄文土器・土師器・須恵器・石器 |
| 調査担当者 | 調査第一課長 野尻 侃 調査研究主幹 長橋 至 主任調査研究員 須賀井新人(調査主任) 調査員 阪 英子 |
| 調査協力 | 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所 置賜教育事務所、米沢市教育委員会 |



検出遺構

見つかった遺構には、縄文時代の土坑・陥穴・埋設土器と、平安時代から近世までの溝跡や柱穴などがあります。このうち、出土遺物などから掘られた時代が明らかなのはごく一部です。今日で言う「骨壺」にあたる埋設土器は、単独的に3点見つかっています。付近に住居跡が見当たらないことから、当地が縄文時代のムラの一部であったことは想像できますが、居住域は北側の平坦部にある可能性が考えられます。3基見つかった陥穴は獣道に配したことが推測され、調査区南半の山麓側で検出されました。調査区西端にある谷状のくぼ地(SX160)からは、平安時代の土器がまとまって出土しました。調査区中央部にある東西方向に掘られた溝跡(SD1～6)は、土地を区画した働きが考えられますが、造られた時期については不明です。おそらく、中世以降のものと思われる。

出土遺物

縄文土器はほとんどが破片ですが、文様のわかるものを観察したところ、今から約3,500年前の縄文時代後期

前半頃の土器と考えられます。石器ではいずれも少数ですが、狩りに使用したヤジリや土を掘るなどに使ったと思われる石ペラ、木の木の加工用具である凹石などの実用品のほか、土偶ならぬ“岩偶”とも考えられている三脚石器が出土しました。

平安時代の土器も器の形がわかるものはほとんどありませんが、貯蔵用の甕の破片や食器である坏などが出土しています。

まとめ

山ノ下遺跡は縄文時代後期(約3,500年前)の集落跡です。調査の成果をまとめると以下のようになります。

発見された遺構や遺物の分布状況から、当時のムラの居住域は調査区北側に広がっていたものと考えられます。また、この時期の遺構の密度や遺物の出土数から推定して、小規模な集落であったか、あるいは季節的なキャンプサイトであったものと思われる。

遺物は整理箱7箱分に相当し、出土量としては少ないながら平安時代の土器も含まれ、当時の生活の様子がうかがわれる資料を得ることができました。



縄文時代の礫石器



縄文時代の土器



縄文時代の打製石器



平安時代の土器



2回目拡張範囲の完掘状況



EU249埋設土器



EU238埋設土器



EU237埋設土器



1回目拡張範囲の完掘状況



SK255土坑



SK247土坑



SK245土坑



SD1~5溝跡



石籠の出土状況(SD2)



山ノ下遺跡遺構配置図(1/400)



SD6溝跡



拡張前調査区の完掘状況



面整理作業



遺跡遠景